

## ヘルスサイエンス領域

日本を中心に商品展開を進め、BtoBでは協和発酵バイオのグローバルな販売体制を強化

### ヘルスサイエンス領域における方針

#### 成長加速

- プラズマ乳酸菌の販売拡大
- ヒトミルクオリゴ糖の発売 (BtoB)
- シチコリンの販売強化
- ファンケルとの協働加速
- M&Aによる成長機会の獲得

#### 強固なバリューチェーンの構築

	 基礎研究	 応用研究	 商品開発	 製造	 販売 チャンネル
<b>KIRIN</b>	 食～医に関するシーズ		 飲料開発 パッケージング	 生産技術・生産管理	 通販 B to B
<b>FANCL</b>		 機能性評価 マスクング技術	 製剤技術	マーケティングカ	 ブランド・卸流通 オンライン・店舗
	 高機能素材の探索			 低コスト 発酵生産技術	
<b>Kyowa KIRIN</b>	 創薬シーズ	医薬品のため対象外			

## 各事業会社の戦略

### キリンホールディングス

「免疫」「脳機能」「腸内環境」の3つを重点領域として定め、各領域において有力な素材を戦略的に展開していきます。

免疫については、「感染リスクの低減」という社会的関心に対し、日本の食品ではじめて「免疫」に関する機能性表示が受理された独自素材であるプラズマ乳酸菌の展開を徹底して拡大していきます。2022年中計ではさらに、ヒトミルクオリゴ糖の発売を予定しています。

脳機能については、加齢などによる機能低下を課題として捉え、「シチコリン」の展開に注力していきます。市場ニーズに応える研究を通じてエビデンスを強化し、主に米国市場におけるシェア拡大を目指します。

腸内環境については、キリングループの長年にわたる微生物研究を基に、一人一人のお客様の健康に関する課題に対応し、最適なソリューションを提案できる個別化ビジネス構築に取り組んでいきます。



### キリンビバレッジ

**キリンビバレッジ**

ヘルスサイエンス戦略を飲料で担う会社へとリポジショニングします。健康価値を訴求した商品の構成比を高めることで、厳しい市場環境の中でも安定した成長の実現を目指します。

注力分野の1つである「摂り過ぎない健康」として、無糖・低糖領域に注力します。また、「プラスの健康」として、プラズマ乳酸菌を使用した「iMUSE」ブランド商品の飛躍的成長を目指すとともに、ファンケル社とのコラボ商品など、新たな価値創造にも取り組んでいきます。

### 小岩井乳業



小岩井乳業株式会社

プラズマ乳酸菌や、記憶ケアにつながるβラクトリンを、毎日の健康習慣に最適な乳製品の形で提供していきます。2021年に機能性表示食品としてリニューアルした「iMUSE」ヨーグルトなどを中心に、市場浸透を図ります。

## 協和発酵バイオ



2019年8月に山口事業所防府工場で発覚した品質管理問題を受け、2020年より、知見、経験をもつキリングループの人材を派遣し、生産・品質管理体制の再構築、本社と拠点の連携強化など再生計画を実行し、2021年は事業利益の黒字化を実現しました。

2022年中計では、事業再生から高収益型経営への転換に向けたステージへと進みます。収益性の高いシチコリンの売上拡大や、ヒトミルクオリゴ糖の発売により、バイオケミカルの先端技術を駆使してグローバルな社会課題を解決する日本発のグローバル・スペシャリティ発酵企業を目指します。

## ファンケル



キリングループとファンケルの両社の強みを相互活用することで、シナジー創出に取り組んでいます。

既存商品を両社のチャンネルで相互販売する「チャンネルシナジー」では、DtoCチャンネルの相互乗り入れなどを展開し成果をあげています。さらに、共同開発による新商品を展開する「商品開発シナジー」でも、コラボ商品を開発し、キリンビレージおよびキリンビールより発売しています。また、ファンケルにおいても、当社グループが研究開発してきた素材、成分を活用した商品が発売されています。

## 協和キリン



ヘルスサイエンス領域において、基礎研究やCDMO事業立ち上げに向けて協和キリンの知見を活用しシナジー創出を目指します。

βラクトリンの機能性評価では、協和キリンの技術を活用するなど、既に具体的な事例が創出されています。さらに、長期的な取り組みとして、協和キリンの医薬製造の知見を取り入れて、協和発酵バイオの強みを生かしたCDMO事業を立ち上げ、新たな価値創造を目指します。

また、協和キリンの中期経営計画でも医薬品にとどまらない価値提供の具現化を戦略として掲げており、さらなる協働取り組みを加速させていきます。